

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年8月4日～2014年8月10日】

[当地報道をもとに作成]

平成26年8月11日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ヘツィア「内相」が解任される(4日)

・ブガンバ「アブハジア共和国大統領代行」は、ヘツィア「内相」を解任し、後任にロルア「内務次官」を任命した。

▼世論調査(6日)

・7月末から8月初めにかけてアブハジア内の全ての地区の住民を含む1200名を対象に実施された世論調査の結果によれば、住民の75%が、ロシアとの更に密接な協力およびロシアのビジネスに対してよりオープンな姿勢が必要であると考えている。

・8月24日に予定されている「大統領選挙」の候補者4名のなかでリードしているのはハジンバ「暫定評議会議長」42%。次いでブジャニア「保安局局长」33%、キシマリア「国防相」19%、ザプシバ「元内相」6%。

・住民の60%がアブハジア内の現状に不満であり、2011年のアンケート「前大統領」の就任以降現在までを「停滞」と捉えている。

【南オセチア】

▼行政境界線の通過の禁止(5日)

・南オセチア「当局」は、6日正午から11日まで行政境界線の通過を禁止すると発表。2008年8月の紛争にまつわる行事に関連する措置。

▼グルジア語学校の歴史教科書の変更(5日)

・「南オセチア教育科学省」が、これまでアハルゴリ地区のグルジア語学校で用いられてきた、グルジア国内の一般の学校でも用いられている歴史教科書には、記述に問題があるとして、9月1日より、北オセチアで出版される歴史教科書が用いられると発表。

2. 外 政

▼査証規則の変更(4日)

・外務省の発表によれば、9月1日以降、無査証または短期滞在のための査証により入国した外国の国民は、180日間のうち90日までグルジア国内に滞在することができる。より長期の滞在を希望する場合はそれに応じた査証の取得が必要となる。無査証で入国できる国のリストは8月中旬に発表される予定。

▼アラサニア国防相がアフガニスタンを訪問(8日—10日)

・「ア」国防相はカブールのフェニックス・キャンプを訪

問。ダンフォード ISAF 司令官と会談し、アフガニスタン情勢および2014年以降のグルジアの貢献について話し合った。2008年8月の戦争から6年が経過したことに因み、グルジア軍部隊を前に演説。

・10日、モハマディ・アフガニスタン国防相と会談。両国の国防相の協力に係る覚書に署名。覚書によれば、グルジア側は国防改革における経験をアフガニスタン側と共有し、アフガン軍の再訓練プログラムに関与する。

▼2008年8月の戦争から6年が経過したことに因む外務省声明(7日)

・外務省が声明を発表。2008年8月の戦争から6年経った今も占領軍はアブハジア・南オセチアを事実上コントロールしており、国内避難民たちはもと暮らしていた場所へ安全で尊厳ある帰還を行なう権利を奪われているとして、ロシアによる2008年8月12日の停戦合意の不履行、占領線に沿った障害物の設置を非難。また、グルジアによる一方的な武力不行使についての誓約に対し、ロシア連邦が適切に答えることを拒んでいると批判。

・ジュネーブ国際会議について、進展がないことを残念とし、現在のフォーマットと議題の維持の必要性を主張。

・ロシアとの関係の段階的な正常化に取り組む一方で、EU・NATO加盟を追求する方針を強調。

3. 内 政

▼サーカシヴィリ前大統領の起訴をめぐる懸念に対するガリバシヴィリ首相の発言(4日)

・4日、「サ」前大統領の起訴について欧米の政府関係者らから相次いで懸念が表明されていることについて、ガリバシヴィリ首相は、「起訴が欧州との統合のプロセスに影響を及ぼすことはない」と述べた。

・6日、ビルト・スウェーデン外相が「グルジア政府は復讐のために司法を利用している」とツイッターに記した。7日にはリンケヴィチウス・リトアニア外相が「選択的司法は欧州との統合にそぐわず、グルジア政府は避けるべきである」と書き込んだ。

・8日、「ガ」首相はこれらの発言について、「これは『サ』前大統領のファンクラブのようなものであり、友情に基づいて単に共感を表明しているに過ぎない」として、改めて起訴の正当性を主張。

▼検察がサーカシヴィリ前大統領を新たな容疑で追訴(5日)

・検察は、2005年7月にトビリシ市内でグラシヴィリ共和党議員(当時)が覆面を被った複数の男性に殴打された事件に関与したとして、サーカシヴィリ前大統領とメ

ラビシヴィリ元内相を起訴。検察の説明によれば、「ゲ」氏が「サ」元大統領を批判するインタビューが新聞に発表された後、「サ」元大統領は当時のオクルアシヴィリ国防相に「ゲ」氏に対する襲撃を指示したが、「オ」国防相が拒否したために、「メ」内相（当時）が内務省の特務隊員に実行させた。「ゲ」氏は2006年4月に議員の身分を剥奪されたが、現在は与党連合議員。

▼控訴裁判所がサーカシヴィリ前大統領の審理前勾留に対する控訴を棄却(5日)

・2日にトビリシ市裁判所がサーカシヴィリ前大統領の審理前勾留に関する検察の要求を認めたことについて、「サ」前大統領の弁護士が決定の取り消しを求めて控訴していたが、控訴裁判所は控訴を棄却。

▼首相がオディシヤリア前文化・遺跡保護大臣を補佐官に任命(5日)

・ガリバシヴィリ首相は、7月に文化・遺跡保護大臣を解任されたオディシヤリア元大臣を首相補佐官に任命した。

4. 経 済

▼2014年7月のインフレ率(4日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率はマイナス0.6%。食料品・非アルコール飲料の価格が2.1%低下(野菜 -19.3%、果物 -9.4%)。医療費が0.7%上昇。

・年間インフレ率は2.8%。食料品・非アルコール飲料の価格が3.4%、医療費が4.7%、輸送費が3.6%上昇。

▼2014年1月～7月のワイン輸出量(5日)

・国家ワイン局が発表。2014年1月～7月のワイン輸出量は31,376,279本で、前年同期比95%増。金額では、102.18百万ドルで前年同期比117%増。

・輸出相手国は、輸出量の多い順にロシア、ウクライナ、

カザフスタン、ポーランド、ベラルーシ、中国、ラトビア、リトアニア、エストニア、アゼルバイジャン。

▼税制改革に関するハドゥリ財務相の発言(7日)

・ハドゥリ財務相は、輸入された素材を用いた輸出品の製造工程におけるサービスに対する付加価値税を免除するなど、「輸出の促進およびビジネス環境の改善」を目指した税制改革を計画していることを発表。

▼2014年1月～7月の入国者数(7日)

・内務省が発表。2014年1月から7月までの入国者数は2,913,618人(前年同期比4%増)。うち旅行者1,191,815人(同11%増)。

・入国元別では、多い順にトルコ(3%減)、アゼルバイジャン(35%増)、アルメニア(2%減)、ロシア(13.3%増)、ウクライナ(同32.6%増)。リトアニア(88%増)、ポーランド(47%増)、オーストリア、ラトビア、イタリアをはじめとするEU諸国からの入国者数も大きく伸びている。

▼外貨準備高(8日)

・グルジア国立銀行によれば、8月1日時点の外貨準備高は2,276百万ドル(2013年8月1日より551百万ドル減)。

4. その他

▼2つの地震が発生(6日)

・6日昼、ドマニシ付近を震源とするマグニチュード3.6の地震が発生。被害は確認されていない。

・同日昼、オニ付近でもマグニチュード3.5の地震が発生。被害は確認されていない。